|  |  |
| --- | --- |
| 指導事例シート⑧ 　　　　　受講者番号（　　　　　　　）　（氏　名：　　　　　　　　　　　　）

|  |
| --- |
| **【地域資源の把握】****※事例提出した利用者の居住する中学校区の状況・特徴****※中学校区内に地域資源がなく、中学校区外で利用している地域資源があれば、その状況・特徴** |

 |
| 項　　　目 | 状　　況　・　特　　徴 |
| 地域の特徴 | 人口 |  |
| 年齢・性別人口 |  |
| 気候 |  |
| 交通状況 |  |
| 町の様子(住宅地・交通量等) |  |
| 公園・散歩コース |  |
| 役所・支援センター |  |
| 公民館・公共施設(図書館等) |  |
| 居宅サービスの状況(中学校区程度) | 訪問看護 |  |
| 認知症対応型通所介護 |  |
| 療養型通所介護 |  |
| 特定施設入居者生活介護 |  |
| 介護老人福祉施設 |  |
| 介護老人保健施設 |  |
| 介護療養型医療施設 |  |
| 介護医療院 |  |
| 定期巡回・随時対応型訪問介護看護 |  |
| 小規模多機能型居宅介護 |  |
| 看護小規模多機能型居宅介護 |  |
| 認知症対応型共同生活介護（グループホーム） |  |
| 地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護 |  |
| 地域密着型特定施設入所者生活介護 |  |
| サービス付き高齢者向け住宅 |  |
| その他 |  |
|  |  |
|  |  |
|  |  |
|  |  |
|  |  |
|  |  |
|  |  |
|  |  |
|  |  |

|  |  |
| --- | --- |
| 指導事例シート⑧ 　　　　　受講者番号（　　　　　　　）　（氏　名：　　　　　　　　　　　　）

|  |
| --- |
| **【地域資源の把握】****※事例提出した利用者の居住する中学校区の状況・特徴****※中学校区内に地域資源がなく、中学校区外で利用している地域資源があれば、その状況・特徴** |

 |
| 項　　　目 | 状　　況　・　特　　徴 |
| 医療機関等 | 診療所 |  |
| 病院 |  |
| 歯科医 |  |
| 薬局 |  |
| 居宅療養管理指導 |  |
| 鍼灸院等 |  |
| その他 |  |
| 生活サポート | 食料品店 |  |
| コンビニエンスストア |  |
| 銀行・郵便局 |  |
| 理美容店 |  |
| ドラッグストア |  |
| コインランドリー |  |
| クリーニング |  |
| ゴミ出し |  |
| 交通手段 |  |
| 娯楽施設(パチンコ・映画・ジム等) |  |
| その他 |  |

|  |  |
| --- | --- |
| 指導事例シート⑧ 　　　　　受講者番号（　　　　　　　）　（氏　名：　　　　　　　　　　　　）

|  |
| --- |
| **【地域資源の把握】****※事例提出した利用者の居住する中学校区の状況・特徴****※中学校区内に地域資源がなく、中学校区外で利用している地域資源があれば、その状況** |

 |
| 項　　　目 | 状　　況　・　特　　徴 |
| 近隣の交流 | 地区の行事 |  |
| 近所との付き合い・様子 |  |
| 地域のキーパーソン |  |
| 相談する人 |  |
| その他 |  |
| 災害時の対策 | 避難場所・避難所 |  |
| ライフライン(電気・ガス・水道) |  |
| 連絡を取る方法　等 |  |
| バイザーが考える、この提出事例で必要とするインフォーマルサポートは？ |  |
| そのインフォーマルサポートを創出するには、どのような取り組みが必要ですか？ |  |
| **※これら中学校区の地域資源の把握から、地域づくり、政策提言の一助とする** |

|  |  |
| --- | --- |
| 指導事例シート⑧ 　　　　　受講者番号（　　　　　　　）　（氏　名：　　　　　　　　　　　　）**例**

|  |
| --- |
| **【地域資源の把握】****※事例提出した利用者の居住する中学校区の状況・特徴****※中学校区内に地域資源がなく、中学校区外で利用している地域資源があれば、その状況・特徴** |

 |
| 項　　　目 | 状　　況　・　特　　徴 |
| 地域の特徴 | 人口 | ７２１０人 |
| 年齢・性別人口 | ３５～３９歳代７％、６０～６４歳代８％、高齢化率２３％男３３７４人（４７％）女３８３６人（５３％） |
| 気候 | 暖温帯、多雨、年間平均気温１７．９℃ |
| 交通状況 | 平地は国道とＪＲ線が並走しており渋滞が深刻高台の公共交通機関はバスが主流。主要駅までは約２０分 |
| 町の様子(住宅地・交通量等) | 近郊農業が盛んで畑地が占めている。中心部は住宅、教育施設が密集している。中心を通る県道は朝、夕は交通量がかなり多い。 |
| 公園・散歩コース | 県立公園まで４ｋｍ 徒歩１０分位の所に公園があり、テニスコートや遊具も設置されている。グランドゴルフ等も行われている。 |
| 役所・支援センター | 支所１ケ所、委託型地域包括支援センター１ケ所、障害者支援センターは隣接地域に１ケ所、権利擁護サポートセンターは隣接地域に１ケ所 |
| 公民館・公共施設(図書館等) | 福祉会館３か所（児童ルーム有）：地区社協によるふれあい・いきいきサロン実施。住民の将棋、囲碁クラブ等が盛ん 保健センター、高齢者福祉センター |
| 居宅サービスの状況(中学校区程度) | 訪問看護 | ＢＢ病院訪問看護ステーション：７名の看護師を配置して、２４時間、３６５日の対応をされている。サービス提供を前提としない、退院前カンフェレンスレンスへの同席依頼も可能。 |
| 認知症対応型通所介護 | Ｈ認知症対応型通所介護：ＮＰＯ法人経営。定員１２名。スタッフ全員が認知症実践者研修を受講している。認知症の進行予防に向けた活動に力を入れている。 |
| 療養型通所介護 | Ｉ療養型通所介護：Ｃ訪問看護ｽﾃｰｼｮﾝに併設。難病やがん末期の要介護者など、医療ニーズと介護ニーズを併せ持つ在宅の中重度者等を対象にしたサービスを提供している。急性期病院入院時からの相談も可能。 |
| 特定施設入居者生活介護 | Ｓ特定施設入居者生活介護（ケアハウス）：Ｔ介護老人福祉施設併設。定員１５名 全室個室。介護老人福祉施設との合同開催による、敬老会、夏祭りなどは、地域住民にも開放している。 |
| 介護老人福祉施設 | Ｔ介護老人福祉施設：定員５０ 従来型の特別養護老人ホームで、個室、２人部屋、４人部屋がある。緊急時の受け入れに要請に対して、積極的に対応している。 |
| 介護老人保健施設 | Ｕ介護老人保健施設：定員７０名　全室個室。明るく家庭的な雰囲気を有し、地域や家庭との結びつきを重視した運営を行っている。在宅復帰に向けた取り組みを積極的に行っている。 |
| 介護療養型医療施設 | Ｖ介護療養型医療施設：ＢＢ病院に併設。急性期の治療を終え、長期の療養を必要とする人にサービスを提供している。 |
| 介護医療院 | 市内にはないが保健所管内に1か所50床あり。送迎付き。 |
| 定期巡回・随時対応型訪問介護看護 | 中学校区内にはなく、市内にあるＷ定期巡回・随時対応型訪問介護看護がカバーしている。Ｗ定期巡回・随時対応型訪問介護看護：株式会社経営。サービス高齢者住宅併設。併設しているサービス高齢者住宅だけでなく、地域へも積極的に対応している。 |
| 小規模多機能型居宅介護 | Ｘ小規模多機能型居宅介護：株式会社経営。利用者宅への訪問も積極的に行っている。医療機関と連携した在宅看取りにも力を入れている。看取りが必要な利用者は、施設での泊まりサービスを提供している。 |
| 看護小規模多機能型居宅介護 | ｂ法人経営。総定員25人、通い15人、泊り5人。広くはないが、目が届きやすい。病院退院時は併設事業所の医師もカンファレンスに主席する。 |
| 認知症対応型共同生活介護（グループホーム） | Ｙｸﾞﾙｰﾌﾟﾎｰﾑ：ＮＰＯ法人経営。定員９名。自宅にかわる「もう一つの家」として、利用者が地域社会の一員として生活できるように、地域に開かれた施設を目指している。月に２回認知症カフェを開催し、地域の認知症啓発にも努めている。 |
| 地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護 | 中学校区にはないが、市内のT介護老人福祉施設のサテライトとして昨年できた。定員29人。隣地の幼稚園と交流がある。 |
| 地域密着型特定施設入所者生活介護 | 中学校区内にはなく、市内にあるＺ有料老人ホームがカバーしている。Ｚ有料老人ホーム：定員２９名。地域の夏まつり、秋祭りには入所者と共に参加するなど、地域との繋がりを大切にされている。 |
| サービス付き高齢者向け住宅 | Ｚaサービス付き高齢者向け住宅：MPO法人経営。４５部屋の内、２部屋は夫婦での入居も可能。又６０歳以上の方であれば介護保険の認定を受けていなくても利用可能。同敷地内に手作りパン屋があり、交流の場となっている。 |
| その他 | ＺC共生型通所介護：年度内中に定員１５名の障害と高齢の双方が利用でくる事業所が開所予定。 |
|  |  |
|  |  |
|  |  |
|  |  |
|  |  |
|  |  |
|  |  |
|  |  |

|  |  |
| --- | --- |
| 指導事例シート⑧ 　　　　　受講者番号（　　　　　　　）　（氏　名：　　　　　　　　　　　　）

|  |
| --- |
| **【地域資源の把握】****※事例提出した利用者の居住する中学校区の状況・特徴****※中学校区内に地域資源がなく、中学校区外で利用している地域資源があれば、その状況・特徴** |

 |
| 項　　　目 | 状　　況　・　特　　徴 |
| 医療機関等 | 診療所 | ＡＡクリニック：内科、消化器科、リハビリテーション科。デイケアを併設Ｒ医院：内科、消化器科、小児科。夜間診療有 |
| 病院 | ＢＢ病院：３３８床。午後は専門外来、予約診察のみ　ＣＣ総合病院：地域のセンター病院で高度の医療機器が充実している。緊急医療を24時間受け入れている。 |
| 歯科医 | ＦＦ歯科医：予防歯科を大切にしている。虫歯予防のブラッシクングの他、食事指導も行っている。通院が難しい患者には訪問診療も行っている。 |
| 薬局 | ＤＤ薬局：全国に展開している調剤薬局。車に乗ったまま薬を受け取ることができる「ドライブイン」を行っている。 |
| 居宅療養管理指導 | ＡＡクリニック訪問診療：クリニックの午前中の診療を終えてから、訪問診療を提供。看取りにも対応され２４時間、相談可能。 |
| 鍼灸院等 | ＥＥ鍼灸院：東洋医学の理論に基づいた「漢方ハリ治療」を行っている。往診診療も行っている |
| その他 | ＡＡクリニック訪問栄養指導：ＡＡクリニック所属の栄養士が、在宅での栄養指導（食事内容、形態等）を行っている。 |
| 生活サポート | 食料品店 | ＧＧストア：徒歩１５分。母体は百貨店。百貨店の商品券も使用可能。食品から生活雑貨まで品揃えしている。　ＨＨスーパー：徒歩１０分。食品から衣料品まで品揃えしている。ネット、電話での注文もできる。店内で買い上げ品を配達までしてくれる。 |
| コンビニエンスストア | ＩＩコンビニ店：徒歩１０分。ネットショッピング、宅食サービス有ＪＪコンビニ店：惣菜や野菜の品揃えが豊富でヘルシー弁当のメニューに力を入れている。 |
| 銀行・郵便局 | ＫＫ銀行：徒歩５分。地元の銀行ＬＬ郵便局：徒歩５分。 |
| 理美容店 | ＭＭ美容室：徒歩５分。予約優先。訪問散髪有ＮＮ理容室： |
| ドラッグストア | ＯＯドラッグストア：徒歩５分。ヘアサロンも併設。ＰＰ薬局：徒歩１０分。食料品、生活用品まで品揃えしている。９：００～２１：００まで営業している。紙オムツの宅配有 |
| コインランドリー | ＱＱコインランドリー：車で１０分。大きな洗濯物やスニーカーまで洗濯可能。混雑状況をネットからも確認できる。 |
| クリーニング | ＲＲクリーニング店：徒歩１０分。集配サービス有。その日のうちに仕上がるサービスもある。 |
| ゴミ出し | ６種類の分別がある。古紙等は子供会月に１度で廃品回収もある。子供たちも回収に参加。近くのスーパーでは古紙等も持ち込めばポイントがたまるサービスがある。６５歳以上、有料、予約制でゴミ出しの手伝いを行っている。 |
| 交通手段 | 民間バス：バス停徒歩５分。（１時間３～４本）繁華街まで約２０分町内コミュニティバス有 |
| 娯楽施設(パチンコ・映画・ジム等) | 高齢者福祉センター：徒歩１０分。６５歳以上の市民利用可能。図書室、温泉浴室、トレーニング室の設備有ＳＳフィットネスクラブ：バスで３０分。駅隣接 |
| その他 | ＴＴ珈琲店：７：００～２３：００営業。モーニングメニュー有ＵＵファミリーレストラン：徒歩１０分。７：３０～５：００営業。宅配、持ち帰りメニュー有 |

|  |  |
| --- | --- |
| 指導事例シート⑧ 　　　　　受講者番号（　　　　　　　）　（氏　名：　　　　　　　　　　　　）

|  |
| --- |
| **【地域資源の把握】****※事例提出した利用者の居住する中学校区の状況・特徴****※中学校区内に地域資源がなく、中学校区外で利用している地域資源があれば、その状況** |

 |
| 項　　　目 | 状　　況　・　特　　徴 |
| 近隣の交流 | 地区の行事 | 夏祭り：自治体、子供会で実施運動会、敬老会等健康推進委員が月１回お弁当を作り、民生委員が独居高齢者に安否確認を兼ねて配達している。 |
| 近所との付き合い・様子 | 築２５年の住宅地。両隣りは付き合いは良好。ファミリー世帯が多い。地域の住民同士は、以前は隣近所の方と煮物等を届けるなど仲良く助け合ってきた。が今は互いに行き来が少なくなっている。 |
| 地域のキーパーソン | 民生委員、児童委員、学区社協：地域のサービス等の情報提供、相談福祉委員（福祉推進員）生活支援コーディ―ネーター２名 |
| 相談する人 | 自治会長：地域での生活上の困りごとを相談できる。近所の友人：子育て中から付き合いがあり、地域の情報を共有している。 |
| その他 | 自治会加入者が減っている。老人会は活動を中止した。コロナ禍で民生児童委員が電話訪問と称して、月１回独居高齢者宅に電話をかけて安否確認している。 |
| 災害時の対策 | 避難場所・避難所 | 小学校グラウンド、体育館近所の公園公民館　保育園 |
| ライフライン(電気・ガス・水道) | 電気：○○電力ガス：都市ガス。緊急時のメール配信サービス有水道：上下水道とも市が管理ＴＶ、ネット、電話とも同じ会社で契約 |
| 連絡を取る方法　等 | 携帯電話、避難場所、近くの親戚を確認 |
| バイザーが考える、この提出事例で必要とするインフォーマルサポートは？ | 複数のサービス事業所、医療機関があり、両隣や民生委員はじめとした協力相談体制もある。しかし認知症そのものに対する知識習得の機会や予防活動が少ないため、認知症啓発劇、認知症ケアパスの配布や、地域住民が参加できる話し相手ボランティア活動、認知症サポーター養成講座への参加等を促すようなインフォーマルサポートが求められています。 |
| そのインフォーマルサポートを創出するには、どのような取り組みが必要ですか？ | 住民意識として認知症についての知識が共有できるように、バイザーとしても、診療所の医師、自治会長、民生児童委員等と相談し、自治区毎の認知症啓発劇、認知症ケアパスの配布などの予防活動を働きかけると共に、発症した際の早期受診体制マップ、徘徊者見守りネットワーク等のシステム作りへの参画、さらに主体的かつ気軽に地域住民が参加できる話し相手ボランティア活動、認知症サポーター養成講座への参加等を促すことで、専門職のみならず地域全体で認知症の人を支えることができる地域をめざしていきたい。 |
| **※これら中学校区の地域資源の把握から、地域づくり、政策提言の一助とする** |